

(様式1)

## 令和3年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立二葉小学校学校
校長名	山崎 隆

### 1 本校の学力に関する状況

#### (1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"><li>・国語、社会、算数の3教科は、全ての観点で全国平均値を上回った。基礎的・基本的な知識・技能が身に付いていると捉えることができる。教員が「学びに向かう力」について考察し、児童の姿から授業を組み立ててきた成果と言える。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・4年生の理科は上昇傾向にあるが、高学年では全国平均を下回っている。</li><li>・全体を通して、記述式の問題に弱い傾向がある。また、回答をできずに無回答でテストを終えてしまう傾向もある。</li></ul>

#### (2) 意識調査結果から ※高学年の調査より

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"><li>・昨年度は課題になっていた「学校で学んだことが将来の役に立つと考えている」児童が、今年度は9割を上回っている。</li><li>・平日放課後の勉強時間が1～2時間の児童が多い。(多くの児童が塾での学習)</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・授業や日常生活で、不思議だな、どうしてだろうと思ったことを調べている児童が6割にとどまっている。</li><li>・勉強するときに自分で計画を立てて取り組んでいる児童が6割にとどまっている。</li><li>・やらされる学習に追われている。</li><li>・学力中間層の児童が、ほめられていると感じていない。</li></ul>

#### (3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
<ul style="list-style-type: none"><li>・タブレット端末を活用した学習では、これまで発言が少なかった児童の考えをロイロノートの付箋から把握し、学習に生かせることができるようになった。</li><li>・教科担任制が始まり、複数の教員が同一学級で授業を行っている。各教科担任に質問をする児童が増えた。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・塾で学習している児童が多く、学校の予習復習に時間をとれない児童がいる。また、あらかじめ知識があるため、学ぶ意欲を高められない児童がいる。思考力を伸ばそうとする態度の育成が課題である。</li><li>・できないことに対してあきらめてしまう傾向がある。特に、思考力・判断力・表現力を伴う問題について課題がある。</li></ul>

## 2 本年度の学力向上に関する主な取組

### (1) 学習規律の徹底と学習意欲の向上

- 「のびる二葉の子」を基に、基本的な学習規律の定着を図る。また、個別に使用できる学習用具や器具の充実を図る。
- 学級全体で話し合ったり伝え合ったりする活動を取り入れ、自信をもって発言したり、考えを深めたりできるようにする。言葉で伝えることが苦手な児童に対しては、ロイロノートを活用したアプローチを図る。
- 「学年×10分+10分」を家庭学習の目標時間として協力をいただき、自主学習の定着を図る。「宿題」の在り方を見直し、ミライシードを基本とした基礎基本の定着を図るための学習と、自己の興味関心に即した学習をさせ、その目的を児童と共有して進める。
- 授業の終末には、学習のめあてに対する自分の考えや学習感想を書くことを徹底させ、学習内容の定着や次時への意欲付けにつなげる。

### (2) 個別指導の工夫

- 朝学習、放課後学習タイム（基本的には月曜放課後）を活用し、テストの見直しや補充的な学習など、個に応じた指導を行う。
- マス計算、視写、既習の漢字の読み書き、基礎計算、都道府県名などに取り組みさせる。
- 東京ベーシック・ドリル、すみだ教育研究所作成の振り返りシート、ミライシードを活用し、基礎的・基本的な知識の定着を図る。児童の学習状況を捉え、既習内容を活用した、発展的な課題に取り組みさせる。
- 「ぐんぐんのびる二葉タイム」（算数の基礎計算）で対象児童を重点的に指導する。

### (3) 教員の授業力向上

- 校内研究を通し、「学びに向かう力の育成」を視点とした授業改善に取り組む。
- 問題解決型のプロセスで、「見通し」と「振り返り」を重視し、自分の言葉で整理する時間を設けるなどの授業改善を行う。
- 教科担任制等推進校についての取組を進める中で、国語・社会・理科の専門性を向上させる校内研修を行う。
- 教科担任制実施以外の学年では、教科の専門性の高い教員と連携し、授業で使用する資料の選定や、実験道具等の準備を学年の複数の教員で行い、活用方法や授業の進め方等を十分に確認する。

## 3 「令和4年度 墨田区学習状況調査」における目標

- ・全教科の全観点において、平均正答率が全国正答率プラス10ポイントの到達を目指す。
- ・家庭と連携し、「家で授業の予習や復習をしている」児童の肯定率が、65%より高くなるようにする。
- ・高学年の理科で、全国平均を上回るようにする。